

## (2) 養護教諭の職務環境の実態

### ◆研修会への参加頻度（表5）（表6）

学外の研修会への参加頻度を尋ねた。「指名研への参加頻度」（表5）は、「年5回以上参加」が小学校の40%、中学校の44%、高校の41%と最も多く4割前後であったが、「年0回（一度も参加なし）」が小学校9%、中学校10%、高校11%と校種にかかわらず1割前後も存在していた。参加回数の中央値は、小学校が年4回、中学校が年5回、高校が年4回であった。次に「自分が行きたい研修への参加頻度」（表6）は、指名研ほど多くはないが、「年5回以上」が最も多く、小学校の23%、中学校の24%、高校の29%と2・3割で、「一度もなし」は小学校の6%、中学校の5%、高校の7%と1割には達しないが、相当数存在した。参加回数の中央値は小中高とも年3回であった。全体としては、養護教諭の研修会への参加＝学習（新情報吸収）の機会は学校により大きな差があり、学校格差が存在することが示された。

表5. 学外の研修会への参加頻度（指名研）

		度数	%
小学校	年0回	70	8.6
	年1回	76	9.3
	年2回	61	7.5
	年3回	99	12.2
	年4回	49	6.0
	年5回以上	326	40.1
	不明	132	16.2
	合計	813	100.0
中学校	年0回	55	9.6
	年1回	51	8.9
	年2回	49	8.6
	年3回	56	9.8
	年4回	36	6.3
	年5回以上	248	43.5
	不明	75	13.2
	合計	570	100.0
高等学校	年0回	51	11.1
	年1回	33	7.2
	年2回	58	12.6
	年3回	37	8.0
	年4回	34	7.4
	年5回以上	190	41.3
	不明	57	12.4
	合計	460	100.0

表6. 学外の研修会への参加頻度（希望する研修）

		度数	%
小学校	年0回	49	6.0
	年1回	135	16.6
	年2回	150	18.5
	年3回	129	15.9
	年4回	39	4.8
	年5回以上	186	22.9
	不明	125	15.4
	合計	813	100.0
中学校	年0回	30	5.3
	年1回	71	12.5
	年2回	116	20.4
	年3回	96	16.8
	年4回	29	5.1
	年5回以上	139	24.4
	不明	89	15.6
	合計	570	100.0
高等学校	年0回	31	6.7
	年1回	65	14.1
	年2回	88	19.1
	年3回	50	10.9
	年4回	32	7.0
	年5回以上	133	28.9
	不明	61	13.3
	合計	460	100.0

#### ◆他の養護教諭との連携（表 7）

「地域の養護教諭との定期会合の参加頻度」（表 7）は、「年 5-9 回参加」が小学校の 37%、中学校の 37%、高校の 28%と最も多く 3-4 割で、全く参加していない人およびそのような定期会合のない地域もわずかながら存在した。参加回数の中央値は、小学校が年 5 回、中学校が年 5 回、高校が年 4 回と 2-3 ヶ月に 1 回の頻度であったが、研修会同様、学校により差が見られた。

		度数	%
小学校	年 1 回	3	0.4
	年 2 回	42	5.2
	年 3 回	125	15.4
	年 4 回	105	12.9
	年 5—9 回	304	37.4
	年 10 回以上	159	19.6
	不明	75	9.2
	合計	813	100.0
中学校	年 1 回	5	0.9
	年 2 回	25	4.4
	年 3 回	91	16.0
	年 4 回	70	12.3
	年 5—9 回	209	36.7
	年 10 回以上	111	19.5
	不明	59	10.4
	合計	570	100.0
高等学校	年 1 回	11	2.4
	年 2 回	47	10.2
	年 3 回	121	26.3
	年 4 回	70	15.2
	年 5—9 回	129	28.0
	年 10 回以上	44	9.6
	不明	38	8.3
	合計	460	100.0

#### ◆養護教諭の授業への参加状況（表 8）

「授業や保健講話（児童生徒対象）を担当しているか」を尋ねた（表 8）。「担当している」と回答した先生が小学校の 62%、中学校の 39%、高校の 19%と生徒の年齢が高いほど、養護教諭が直接教える機会が減少することが示された。特に、中学高校では、「担当したことはあるが今はしていない」と回答した先生が、約 40%も存在していることから、何らかの理由で養護教諭の教育への参加が困難になった、あるいは継続性がない可能性が示唆された。

		度数	%
小学校	担当したことがない	71	8.7
	担当している	507	62.4
	担当したことはあるが、今はしていない	157	19.3
	その他	72	8.9
	不明	6	0.7
	合計	813	100.0
中学校	担当したことがない	57	10.0
	担当している	221	38.8
	担当したことはあるが、今はしていない	254	44.6
	その他	36	6.3
	不明	2	0.4
	合計	570	100.0
高等学校	担当したことがない	156	33.9
	担当している	89	19.3
	担当したことはあるが、今はしていない	190	41.3
	その他	24	5.2
	不明	1	0.2
	合計	460	100.0

### ◆校内の養護教諭の立場（表 9）

「校内で養護教諭の意見は尊重されていると思うか」を尋ねた（表 9）。「ある程度尊重されている」と回答した先生が最も多く小学校の 74%、中学校の 74%、高校の 76%と校種にかかわらず四分の三に達していた。一方、「十分に尊重されている」と回答した先生は、小学校 21%、中学校 20%、高校 13%と 1-2 割程度にとどまり、児童生徒の身体的精神的両面からの相談の中心を担っているにもかかわらず、校内でその意見が十分には尊重されているとは言えない可能性が示唆された。

表 9. 一般的に学校の中で養護教諭の意見は尊重されていると思うか

		度数	%
小学校	十分に尊重されていると思う	168	20.7
	ある程度は尊重されていると思う	598	73.6
	あまり尊重されていないと思う	38	4.7
	ほとんど尊重されていないと思う	3	0.4
	不明	6	0.7
	合計	813	100.0
中学校	十分に尊重されていると思う	113	19.8
	ある程度は尊重されていると思う	420	73.7
	あまり尊重されていないと思う	32	5.6
	ほとんど尊重されていないと思う	2	0.4
	不明	3	0.5
	合計	570	100.0
高等学校	十分に尊重されていると思う	59	12.8
	ある程度は尊重されていると思う	350	76.1
	あまり尊重されていないと思う	43	9.3
	ほとんど尊重されていないと思う	8	1.7
	不明		
	合計	460	100.0

### ◆養護教諭の勤務時間/休憩時間（表 10）（表 11）

「平均的な一日の勤務時間」を尋ねた（表 10）。「8-10 時間」と回答した先生が最も多く小学校の 94%、中学校の 83%、高校の 93%と 8-9 割であった。一方、「11 時間以上」と回答した先生が、小学校 4%、中学校 14%、高校 5%と小学校/高校では 5%程度であったが、中学校では 14%にもものぼり、養護教諭の多忙な勤務状況が明らかとなった。次に、「実際にとれる休憩・昼食時間」を尋ねた（表 11）。中央値は小中高とも 30 分であり、ここでも養護教諭の多忙な状況が示された。

表 10. 平均的な 1 日の勤務時間

		度数	%
小学校	8 時間未満	18	2.2
	8-10 時間	761	93.6
	11 時間以上	29	3.6
	不明	5	0.6
	合計	813	100.0
中学校	8 時間未満	9	1.6
	8-10 時間	473	83.0
	11 時間以上	78	13.7
	不明	10	1.8
合計	570	100.0	
高等学校	8 時間未満	6	1.3
	8-10 時間	428	93.0
	11 時間以上	24	5.2
	不明	2	0.4
	合計	460	100.0

表 11. 一日の休憩・昼食時間

		度数	%
小学校	0 分	40	4.9
	約 20 分	244	30.0
	約 40 分	335	41.2
	約 60 分	164	20.2
	60 分以上	11	1.4
	不明	19	2.3
	合計	813	100.0
中学校	0 分	35	6.1
	約 20 分	204	35.8
	約 40 分	239	41.9
	約 60 分	76	13.3
	60 分以上	4	0.7
	不明	12	2.1
合計	570	100.0	
高等学校	0 分	17	3.7
	約 20 分	195	42.4
	約 40 分	187	40.7
	約 60 分	49	10.7
	60 分以上	5	1.1
	不明	7	1.5
	合計	460	100.0

### ◆養護教諭の勤務状況（表 12）

養護教諭の勤務状況について 6 項目の具体的な質問をした（表 12）（但し、本稿では一部のみに限定して解説）。①「忙しくて昼食をとれないことがあるか」を尋ねた。小学校/中学校では「ない」と回答した先生が最も多く小学校の 74%、中学校の 61%であったが、高校では「たまにある」が 46%で最高値となった。一方、「昼食をとれないことがよくある」と回答した先生が、小学校 2%、中学校 3%、高校 9%と小中では 2-3%程度であったが、高校では 10%近くにもなった。②「トイレに行く時間もないときがあるか」を尋ねた。「よくある」と回答した先生が、小学校 9%、中学校 9%、高校 12%と校種にかかわらず 10%前後も存在していた。③「仕事を自宅に持ち帰ることがあるか」を尋ねた。「よくある」との回答が小学校 21%、中学校 16%、高校 10%と 1-2 割にも達していた。④「自宅にまで相談の連絡が入ることがあるか」を尋ねた。「よくある」は全校種とも 2-4%程度にとどまっていたが、「たまにある」が 30-40%にものぼり、④同様、学内だけでなく、勤務時間外であっても少なからず業務に拘束されている状況が示された。

表 12. 養護教諭の勤務状況

	小学校		中学校		高等学校	
	度数	%	度数	%	度数	%
①「忙しくて昼食をとれないこと」がよくある	12	1.5	17	3.0	41	8.9
②「トイレに行く時間もないとき」がよくある	71	8.7	53	9.3	54	11.7
③「仕事を自宅に持ち帰ること」がよくある	171	21.0	93	16.3	45	9.8
④「自宅にまで相談の連絡が入ること」がよくある	12	1.5	16	2.8	16	3.5

### ◆学校の実態（表 13）（表 14）

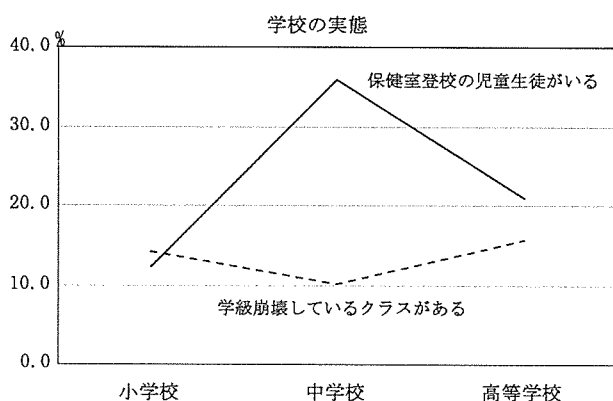
「保健室登校」をしている児童生徒を現状を尋ねた（表 13）。「保健室登校をしている児童生徒がいる」と回答した先生は小学校の 12%、中学校の 36%、高校の 21%とかなりの割合に達していた。次に「授業がなりたっていないクラス（“学級崩壊”）があるか」を尋ねた（表 14）。小学校の 14%、中学校の 10%、高校の 16%といずれも 1 割を超える学校で“学級崩壊”が生じている状況が示された。

表 13. 保健室登校をしている児童生徒がいるか

		度数		%	
		度数	%	度数	%
小学校	いる	104	12.3		
	いない	709	87.2		
	不明	4	0.5		
	合計	817	100.0		
中学校	いる	205	36.0		
	いない	359	63.0		
	不明	6	1.1		
	合計	570	100.0		
高等学校	いる	96	20.9		
	いない	363	78.9		
	不明	1	0.2		
	合計	460	100.0		

表 14. 現在の学校で、授業が成り立っていないクラスがあるか

		度数		%	
		度数	%	度数	%
小学校	ない	673	82.8		
	ある	115	14.1		
	わからない	17	2.1		
	不明	8	1.0		
	合計	813	100.0		
中学校	ない	491	86.1		
	ある	58	10.2		
	わからない	18	3.2		
	不明	3	0.5		
	合計	570	100.0		
高等学校	ない	348	75.7		
	ある	72	15.7		
	わからない	40	8.7		
	不明	0	0.0		
	合計	460	100.0		



### (3) 保健室の実態

\*注：一日の平均に関する質問は、繁忙期でない平均的勤務日の状況を記載するように依頼

#### ◆保健室の利用者数および来室理由（児童生徒）（表 15）（表 16）

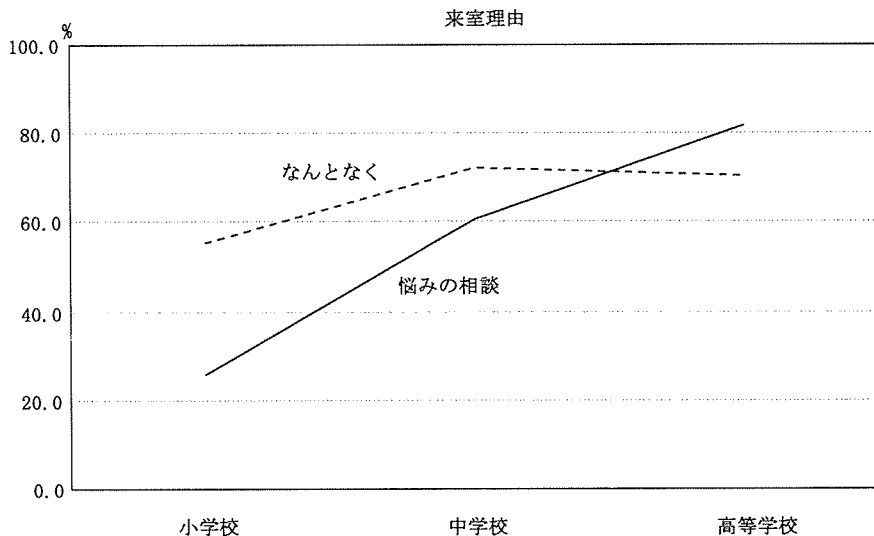
「一日の保健室来室者数（児童生徒）」を尋ねた（表 15）（注：但し来室者数には付き添いの児童生徒も含まれ、同日に複数回来室の場合は述べ数）。「一日の来室者数」の中央値は小学校 15 人、中学校 20 人、高校 28 人と一日に相当数の児童生徒が来室している状況が示された。次に「保健室来室理由」を尋ねた（表 16）（複数回答）。多い順に並べると、小学校では「身体的不調」（99%）、「付き添い」（71%）、「なんとなく」（55%）、「悩みの相談」（26%）で、中学校では「身体的不調」（98%）、「付き添い」（77%）、「なんとなく」（72%）、「悩みの相談」（61%）で、高校では「身体的不調」（99%）、「悩みの相談」（82%）、「付き添い」（79%）、「なんとなく」（71%）であった。学年上昇とともに「悩みの相談」が顕著に増加し、また来室者には相談予備軍と推測される「なんとなく」群が多数含まれることが示された。

表 15. 一日の保健室利用者数(児童生徒、付き添い含む)

		度数	%
小学校	10 人まで	309	38.0
	11-30 人	301	37.0
	31-50 人	106	13.0
	51 人以上	63	7.7
	不明	34	4.2
	合計	813	100.0
中学校	10 人まで	148	26.0
	11-30 人	238	41.8
	31-50 人	93	16.3
	51 人以上	61	10.7
	不明	30	5.3
	合計	570	100.0
高等学校	10 人まで	44	9.6
	11-30 人	221	48.0
	31-50 人	117	25.4
	51 人以上	58	12.6
	不明	20	4.3
	合計	460	100.0

表 16. 本日の保健室利用者の来室理由

		度数	%
小学校	身体的（怪我、腹痛、頭痛など）不調	777	98.6
	悩みの相談	204	25.9
	なんとなく	436	55.3
	付き添いで	556	70.6
	その他	267	33.9
	合計	788	100.0
中学校	身体的（怪我、腹痛、頭痛など）不調	537	98.0
	悩みの相談	334	60.9
	なんとなく	395	72.1
	付き添いで	420	76.6
	その他	240	43.8
	合計	548	100.0
高等学校	身体的（怪我、腹痛、頭痛など）不調	438	98.6
	悩みの相談	363	81.8
	なんとなく	313	70.5
	付き添いで	352	79.3
	その他	221	49.8
	合計	444	100.0



◆保健室の相談件数および相談内容（児童生徒）（表 17）（表 18）（表 19）

「保健室における一日の相談件数（児童生徒）」を尋ねた（表 17）。相談が「まったくなかった」学校が、小学校 55%、中学校 23%、高校 9%であったが、「一日の相談件数」の平均値は小学校 0.9 件±2.2、中学校 2.4 件±4.5、高校 3.6 件±4.2 と高学年ほど相談件数が増えている状況が示された。次に一人当たりの「相談時間」の平均（表 18）は小学校 12.9 分±13.0、中学校 20.0 分±14.4、高校 27.6±17.0 で高学年ほど一人に費やす相談時間も長くなっていた。さらに「相談内容」の内訳を尋ねた（表 19）（複数回答）。10%を越し、性の問題以外ものを多い順に並べると、小学校では「友達関係のこと」（54%）、「からだの悩み」（42%）、「家庭のこと」（20%）、「先生との人間関係」（10%）で、中学校では「友達関係のこと」（70%）、「家庭のこと」（36%）、「身体の悩み」（35%）、「授業・成績のこと」（26%）、「先生との人間関係」（18%）で、高校では「友達関係のこと」（69%）、「家庭のこと」（39%）、「身体の悩み」（38%）、「授業・成績のこと」（26%）、「先生との人間関係」（20%）であった。特に、本研究班と直的のかかわりのある交際や性に関わる相談に関しては、小学校では「交際・恋愛のこと」（2%）、「性の問題のこと」（2%）、中学校では「交際・恋愛のこと」（18%）、「性の問題のこと」（5%）、高校では「交際・恋愛のこと」（36%）、「性の問題のこと」（15%）、小学生でも少数ではあるが性関連の問題を相談する児童が存在し、中学校/高校ではその割合が急増している状況が示された。

表 17. 一日の児童生徒の相談件数

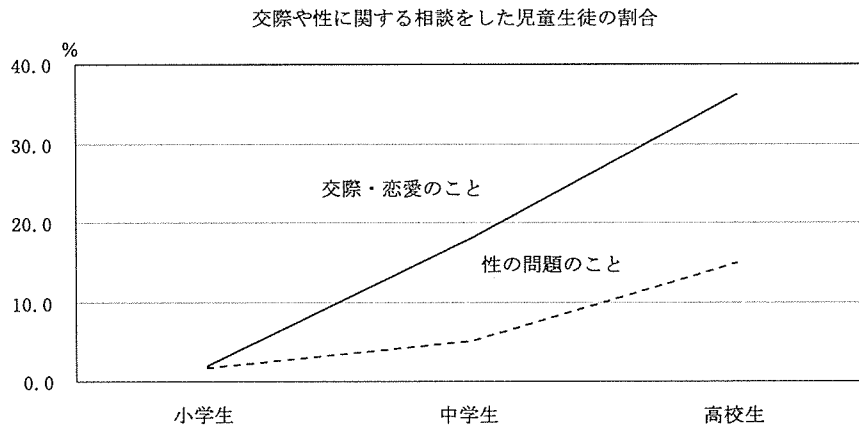
		度数	
		度数	%
小学校	0 件	444	54.6
	1 件	162	19.9
	2 件	72	8.9
	3 件	33	4.1
	4 件以上	36	4.4
	不明	66	8.1
	合計	813	100.0
中学校	0 件	129	22.6
	1 件	122	21.4
	2 件	118	20.7
	3 件	61	10.7
	4 件以上	99	17.4
	不明	41	7.2
	合計	570	100.0
高等学校	0 件	41	8.9
	1 件	70	15.2
	2 件	105	22.8
	3 件	65	14.1
	4 件以上	151	32.8
	不明	28	6.1
	合計	460	100.0

表 18. 児童生徒一人あたりの相談時間（平均）

		度数	
		度数	%
小学校	5 分まで	86	10.6
	6-10 分	88	10.8
	11-20 分	66	8.1
	21-30 分	33	4.1
	31 分以上	6	0.7
	不明	534	65.7
	合計	813	100.0
中学校	5 分まで	45	7.9
	6-10 分	88	15.4
	11-20 分	89	15.6
	21-30 分	67	11.8
	31 分以上	45	7.9
	不明	236	41.4
合計	570	100.0	
高等学校	5 分まで	20	4.3
	6-10 分	39	8.5
	11-20 分	87	18.9
	21-30 分	108	23.5
	31 分以上	96	20.9
	不明	110	23.9
合計	460	100.0	

表 19. 相談内容

		度数	%
小学校	からだの悩み	132	41.5
	友達関係のこと	170	53.5
	先生との人間関係のこと	31	9.7
	授業・成績のこと	18	5.7
	家庭のこと	64	20.1
	交際・恋愛のこと	6	1.9
	性の問題のこと	5	1.6
	その他	61	19.2
	合計	318	100.0
中学校	からだの悩み	146	35.3
	友達関係のこと	290	70.0
	先生との人間関係のこと	74	17.9
	授業・成績のこと	108	26.1
	家庭のこと	148	35.7
	交際・恋愛のこと	75	18.1
	性の問題のこと	21	5.1
	その他	81	19.6
	合計	414	100.0
高等学校	からだの悩み	154	38.1
	友達関係のこと	280	69.3
	先生との人間関係のこと	80	19.8
	授業・成績のこと	103	25.5
	家庭のこと	157	38.9
	交際・恋愛のこと	146	36.1
	性の問題のこと	60	14.9
	その他	122	30.2
	合計	404	100.0



◆保健室での相談状況および相談内容（児童生徒以外）

（表 20）（表 21）（表 22）（表 23）（表 24）（表 25）（表 26）（表 27）（表 28）（表 29）

在学中の児童生徒以外からの相談状況を調べた。①「同じ職場の教職員からの相談頻度」を尋ねた。「よくある」と回答した先生は、小学校 38%、中学校 44%、高校 54%で（表 20）その相談頻度は月 2-4 回が最も多かった（表 21）。相談内容（表 22）（複数回答）は「児童生徒のこと」が小中高ともほぼ 100%近くであるが、「教職員自身のこと」も小学校 77%、中学校 81%、高校 78%と児童生徒のことだけでなく、教職員の相談も受けていることが明らかとなった。②「管理職から相談を受けることはあるか」を尋ねた。「よくある」と回答した先生は、小学校 13%、中学校 11%、高校 15%で（表 23）その相談頻度は月 2-4 回が最も多かった（表 24）。相談内容（表 25）（複数回答）は「児童生徒のこと」が小中高ともほぼ 100%近くであるが、「管理職自身のこと」も小学校 36%、中学校 31%、高校 19%と児童生徒のことだけでなく、管理職自身の相談も受けていた。③「保護者から相談を受けることはあるか」を尋ねた。「よくある」と回答した先生は、小学校 14%、中学校 17%、高校 15%で（表 26）その相談頻度は月 2-4 回が最も多かった（表 27）。相談内容（表 28）（複数回答）は「児童生徒のこと」が小中高とも 100%であるが、「保護者自身や家庭のこと」も小学校 39%、中学校 34%、高校 32%と児童生徒のことだけでなく、保護者自身や家庭の相談も受けていた。④「卒業生から相談を受けることはあるか」を尋ねた。「よくある」と回答した先生は、小学校 2%、中学校 4%、高校 8%と（表 29）10%未満ではあるが、卒業生の相談までも受けている現状が示された。

表 20. 同じ職場の教職員から相談を受けることがあるか

		度数	%
小学校	よくある	307	37.8
	たまにある	368	45.3
	あまりない	102	12.5
	ほとんどない	29	3.6
	不明	7	0.9
	合計	813	100.0
中学校	よくある	251	44.0
	たまにある	245	43.0
	あまりない	52	9.1
	ほとんどない	17	3.0
	不明	5	0.9
	合計	570	100.0
高等学校	よくある	247	53.7
	たまにある	174	37.8
	あまりない	29	6.3
	ほとんどない	5	1.1
	不明	5	1.1
	合計	460	100.0

表 21. 相談頻度（同僚からの相談）

		度数	%
小学校	月 1 回	20	6.5
	月 2-4 回	126	41.0
	月 5-9 回	63	20.5
	月 10 回以上	56	18.2
	不明	42	13.7
	合計	307	100.0
中学校	月 1 回	16	6.4
	月 2-4 回	105	41.8
	月 5-9 回	52	20.7
	月 10 回以上	53	21.1
	不明	25	10.0
	合計	251	100.0
高等学校	月 1 回	20	8.1
	月 2-4 回	106	42.9
	月 5-9 回	47	19.0
	月 10 回以上	52	21.1
	不明	22	8.9
	合計	247	100.0

表 22. 相談内容（同僚からの相談）

		度数	%
小学校	児童生徒のこと	300	99.0
	教職員自身のこと	234	77.2
	その他	68	22.4
	合計	303	100.0
中学校	児童生徒のこと	243	98.0
	教職員自身のこと	200	80.6
	その他	65	26.2
	合計	248	100.0
高等学校	児童生徒のこと	244	100.0
	教職員自身のこと	191	78.3
	その他	46	18.9
	合計	244	100.0



表 23. 管理職から相談を受けることがあるか

		度数	%
小学校	よくある	106	13.0
	たまにある	340	41.8
	あまりない	243	29.9
	ほとんどない	113	13.9
	不明	11	1.4
	合計	813	100.0
中学校	よくある	65	11.4
	たまにある	260	45.6
	あまりない	177	31.1
	ほとんどない	65	11.4
	不明	3	0.5
	合計	570	100.0
高等学校	よくある	69	15.0
	たまにある	190	41.3
	あまりない	143	31.1
	ほとんどない	54	11.7
	不明	4	0.9
	合計	460	100.0

表 25. 相談内容（管理職からの相談）

		度数	%
小学校	児童生徒のこと	99	96.1
	教職員自身のこと	37	35.9
	その他	42	40.8
	合計	103	100.0
中学校	児童生徒のこと	62	96.9
	教職員自身のこと	20	31.3
	その他	31	48.4
	合計	64	100.0
高等学校	児童生徒のこと	64	94.1
	教職員自身のこと	13	19.1
	その他	38	55.9
	合計	68	100.0

表 27. 相談頻度（保護者からの相談）

		度数	%
小学校	月 1 回	23	20.2
	月 2-4 回	58	50.9
	月 5-9 回	13	11.4
	月 10 回以上	5	4.4
	不明	15	13.2
	合計	114	100.0
中学校	月 1 回	21	21.4
	月 2-4 回	50	51.0
	月 5-9 回	19	19.4
	月 10 回以上	5	5.1
	不明	3	3.1
	合計	98	100.0
高等学校	月 1 回	17	24.6
	月 2-4 回	38	55.1
	月 5-9 回	8	11.6
	月 10 回以上	5	7.2
	不明	1	1.4
	合計	69	100.0

表 24. 相談頻度（管理職からの相談）

		度数	%
小学校	月 1 回	15	14.2
	月 2-4 回	51	48.1
	月 5-9 回	17	16.0
	月 10 回以上	10	9.4
	不明	13	12.3
	合計	106	100.0
中学校	月 1 回	13	20.0
	月 2-4 回	34	52.3
	月 5-9 回	11	16.9
	月 10 回以上	2	3.1
	不明	5	7.7
	合計	65	100.0
高等学校	月 1 回	18	26.1
	月 2-4 回	34	49.3
	月 5-9 回	7	10.1
	月 10 回以上	4	5.8
	不明	6	8.7
	合計	69	100.0

表 26. 保護者から相談を受けることがあるか

		度数	%
小学校	よくある	114	14.0
	たまにある	513	63.1
	あまりない	135	16.6
	ほとんどない	44	5.4
	不明	7	0.9
	合計	813	100.0
中学校	よくある	98	17.2
	たまにある	360	63.2
	あまりない	85	14.9
	ほとんどない	26	4.6
	不明	1	0.2
	合計	570	100.0
高等学校	よくある	69	15.0
	たまにある	256	55.7
	あまりない	95	20.7
	ほとんどない	38	8.3
	不明	2	0.4
	合計	460	100.0

表 28. 相談内容（保護者からの相談）

		度数	%
小学校	児童生徒のこと	114	100.0
	保護者自身のこと	44	38.6
	その他	14	12.3
	合計	114	100.0
中学校	児童生徒のこと	90	100.0
	保護者自身のこと	31	34.4
	その他	8	8.9
	合計	90	100.0
高等学校	児童生徒のこと	68	100.0
	保護者自身のこと	22	32.4
	その他	3	4.4
	合計	68	100.0

表 29. 卒業生から相談を受けることがよくある

	度数	%
小学校	17	2.1
中学校	20	3.5
高等学校	38	8.3

◆スクールカウンセラー配置状況（表 30）（表 31）（表 32）

「学校にスクールカウンセラーが配置されているか」を尋ねた（表 30）。「配置されている」学校は、小学校 12%、中学校 73%、高校 47%であった。配置校におけるスクールカウンセラー派遣頻度は、小中高とも週 1 回が最多で（表 31）、相談した児童生徒数は月平均 2-5 人であった（表 32）。

表 30. 学校にスクールカウンセラーが配置されているか

		度数	%
小学校	はい	95	11.7
	いいえ	714	87.8
	不明	4	0.5
	合計	813	100.0
中学校	はい	415	72.8
	いいえ	153	26.8
	不明	2	0.4
	合計	570	100.0
高等学校	はい	214	46.5
	いいえ	243	52.8
	不明	3	0.7
	合計	460	100.0

表 31. スクールカウンセラーの派遣頻度

		度数	%
小学校	週 1 回以下	26	27.4
	週 1 回	39	41.1
	週 2 回	6	6.3
	週 3 回以上	6	6.3
	不明	18	18.9
	合計	95	100.0
中学校	週 1 回以下	31	7.5
	週 1 回	296	71.3
	週 2 回	43	10.4
	週 3 回以上	14	3.4
	不明	31	7.5
	合計	415	100.0
高等学校	週 1 回以下	47	22.0
	週 1 回	103	48.1
	週 2 回	10	4.7
	週 3 回以上	6	2.8
	不明	48	22.4
	合計	214	100.0

表 32. 付問 3. 実際に相談した人数（月平均）

		度数	%
小学校	月平均 0 人	8	8.4
	月平均 1 人	7	7.4
	月平均 2-5 人	34	35.8
	月平均 6-9 人	4	4.2
	月平均 10 人以上	10	10.5
	不明	32	33.7
	合計	95	100.0
中学校	月平均 0 人	13	3.1
	月平均 1 人	19	4.6
	月平均 2-5 人	128	30.8
	月平均 6-9 人	30	7.2
	月平均 10 人以上	60	14.5
	不明	165	39.8
	合計	415	100.0
高等学校	月平均 0 人	4	1.9
	月平均 1 人	14	6.5
	月平均 2-5 人	64	29.9
	月平均 6-9 人	30	14.0
	月平均 10 人以上	45	21.0
	不明	57	26.6
	合計	214	100.0

◆過去1年間の学外紹介状況（表 33）

「過去1年間に児童生徒を学外諸機関に紹介したことがあるか」を尋ねた（表 33）（複数回答）。紹介先（10%を超えるもの）で多い順から並べると、小学校では「医療機関」（64%）、「スクールカウンセラー」（41%）、「児童相談所」（27%）、「総合教育センター」（20%）、中学校では「スクールカウンセラー」（77%）、「医療機関」（61%）、「児童相談所」（22%）、「総合教育センター」（12%）、高校では「医療機関」（82%）、「スクールカウンセラー」（54%）、「総合教育センター」（15%）、「児童相談所」「民間の相談室」（10%）と、高学年ほど紹介先が多様化していた。

表 33. 過去1年間に児童生徒を下記に紹介したことがあるか

		度数	%
小学校	Q27-1. スクールカウンセラー	172	40.5
	Q27-2. 医療機関	272	64.0
	Q27-3. 児童相談所	114	26.8
	Q27-4. 総合教育センター	86	20.2
	Q27-5. 民間の相談室	23	5.4
	Q27-6. 警察	3	0.7
	Q27-7. その他	35	8.2
	合計	425	100.0
中学校	Q27-1. スクールカウンセラー	346	76.7
	Q27-2. 医療機関	277	61.4
	Q27-3. 児童相談所	100	22.2
	Q27-4. 総合教育センター	52	11.5
	Q27-5. 民間の相談室	22	4.9
	Q27-6. 警察	13	2.9
	Q27-7. その他	30	6.7
	合計	451	100.0
高等学校	Q27-1. スクールカウンセラー	216	53.9
	Q27-2. 医療機関	328	81.8
	Q27-3. 児童相談所	41	10.2
	Q27-4. 総合教育センター	60	15.0
	Q27-5. 民間の相談室	41	10.2
	Q27-6. 警察	12	3.0
	Q27-7. その他	31	7.7
	合計	401	100.0

◆保健室の相談業務に対する自己評価（表 34）（表 35）

「現在の勤務先の保健室での相談活動についてどう思うか」を尋ねた（表 34）。小中高とも「ある程度機能していると思う」が最多で小学校 42%、中学校 60%、高校 51%であった。一方、「あまり機能していないと思う」+「まったく機能していないと思う」と回答した学校は、小学校 17%。中学校 13%、高校 39%と全体の 1-3 割の学校が十分な相談業務が実施されていない状況であった。「相談業務がうまく機能していない理由は何か」を尋ねた（表 35）（複数回答）。上位 2 つは小中高とも、「相談のための十分な時間がとれない」「プライバシーを守れる空間がない」という外的要因であった。

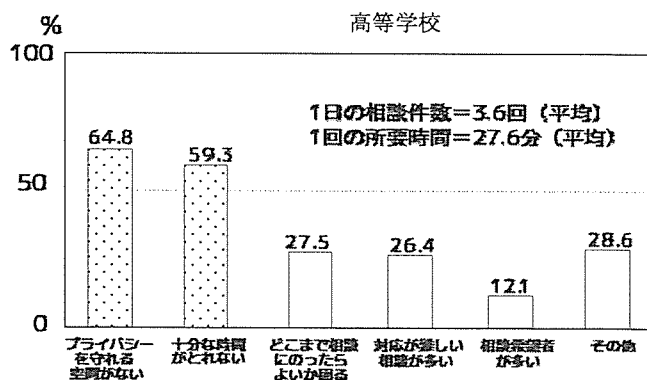
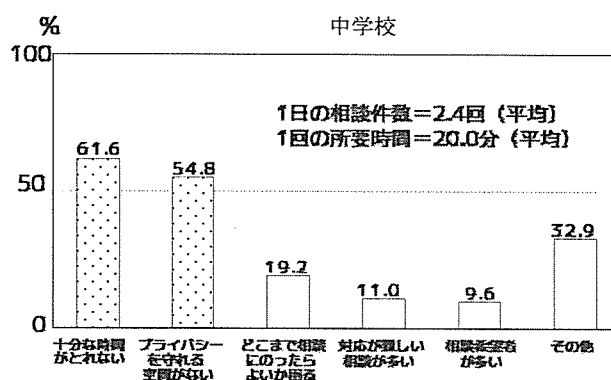
表 34. 保健室での相談業務はうまく機能していると思うか

		度数	%
小学校	うまく機能していると思う	61	7.5
	ある程度うまく機能していると思う	339	41.7
	どちらともいえない	260	32.0
	あまり機能していないと思う	126	15.5
	まったく機能していないと思う	10	1.2
	不明	17	2.1
	合計	813	100.0
中学校	うまく機能していると思う	51	8.9
	ある程度うまく機能していると思う	340	59.6
	どちらともいえない	105	18.4
	あまり機能していないと思う	70	12.3
	まったく機能していないと思う	3	0.5
	不明	1	0.2
	合計	570	100.0
高等学校	うまく機能していると思う	45	9.8
	ある程度うまく機能していると思う	235	51.1
	どちらともいえない	85	18.5
	あまり機能していないと思う	92	20.0
	不明	3	0.7
	合計	460	100.0

表 35. うまく機能していない理由

		度数	%
小学校	相談のための十分な時間が取れない	62	47.3
	相談希望者が多すぎる	2	1.5
	プライバシーを守れる空間がない	75	57.3
	どこまで相談にのったらよいか判断に困る	25	19.1
	対応が難しい相談が多い	10	7.6
	その他	54	41.2
	合計	131	100.0
中学校	相談のための十分な時間が取れない	45	61.6
	相談希望者が多すぎる	7	9.6
	プライバシーを守れる空間がない	40	54.8
	どこまで相談にのったらよいか判断に困る	14	19.2
	対応が難しい相談が多い	8	11.0
	その他	24	32.9
	合計	73	100.0
高等学校	相談のための十分な時間が取れない	54	59.3
	相談希望者が多すぎる	11	12.1
	プライバシーを守れる空間がない	59	64.8
	どこまで相談にのったらよいか判断に困る	25	27.5
	対応が難しい相談が多い	24	26.4
	その他	26	28.6
	合計	91	100.0

相談業務がうまく機能していない理由  
(複数回答)



◆養護教諭の仕事のやりがい（表 36）

「養護教諭の仕事にやりがいとを感じるか」を尋ねた（表 36）。小中高とも「かなり感じる」が小学校 48%、中学校 47%、高校 50%と約半数にも達し、さらに「とても感じる」は、小学校 15%、中学校 19%、高校 17%と 2 割弱の先生が強いやりがいを感じており、全体的に、7 割近い養護教諭が仕事に肯定的意識を抱いていた。

表 36. 養護教諭の仕事にやりがいを感じているか

		度数	%
小学校	とても感じる	121	14.9
	かなり感じる	387	47.6
	どちらともいえない	267	32.8
	あまり感じない	29	3.6
	全く感じない	1	0.1
	不明	8	1.0
	合計	813	100.0
中学校	とても感じる	106	18.6
	かなり感じる	268	47.0
	どちらともいえない	169	29.6
	あまり感じない	21	3.7
	不明	6	1.1
	合計	570	100.0
高等学校	とても感じる	80	17.4
	かなり感じる	229	49.8
	どちらともいえない	128	27.8
	あまり感じない	19	4.1
	全く感じない	1	0.2
	不明	3	0.7
	合計	460	100.0

## B. 保健室における相談業務不全意識に関連する要因に関する分析

### ◆単変量解析

#### 保健室における相談業務不全意識に関連する要因の2変量解析(表37)

(\*表37には、統計的に有意な関連の見られた項目のみを紹介)

「現在の勤務先の保健室での相談活動についての養護教諭の自己評価」を尋ね、相談業務不全意識(注:保健室での相談活動が「あまり機能していない」+「ほとんど機能していない」と思う割合)に統計的に有意に関連する要因を示した。まず、相談業務不全意識と強い関連(粗オッズ比 $\geq 2$ )を示した要因は、本人関連因子では、「年齢が若いこと」(20代:粗 OR=3)(30代:粗 OR=2)、「養護教諭としての経験年数が10年未満であること」(粗 OR=4)、「現在の学校での勤務年数が1年未満であること」(粗 OR=3)、「仕事にやりがいを感じていないこと」(粗 OR=4.9)であった。次に校内役割因子では、「授業を担当したことがないこと」(粗 OR=2)、「校内で養護教諭の意見が尊重されていないこと」(粗 OR=3.42)で、学内外の個人連携因子では、「学内の他教員からの相談頻度が低いこと」(粗 OR=3.7)、「管理職からの相談頻度が低いこと」(粗 OR=4)、「保護者からの相談頻度が低いこと」(粗 OR=4.5)であった。次に弱い関連(粗オッズ比 $< 2$ )を示した要因は、「児童数が多いこと」「学級崩壊しているクラスがあること」等の学校因子および「医療機関に紹介しなかった(できなかった)」「児童相談所に紹介しなかった(できなかった)」「スクールカウンセラーに紹介しなかった(できなかった)」等の学外機関連携因子であった。

表 37. 保健室における相談業務に関連する要因  
 (保健室の相談業務が「あまり機能していない」+「まったく機能していない」割合)

		人数	不全意識	%	粗 OR	95%CI	P値
養護教諭の年齢	50代以上	434	70	16.1	1.00		
	40代	542	105	19.4	1.25	0.90-1.74	0.190
	30代	251	75	29.9	2.22	1.53-3.22	0.000
	20代	143	51	35.7	2.88	1.88-4.42	0.000
養護教諭としての勤務年数	30年<	282	38	13.5	1.00		
	10~30年以下	889	193	21.7	1.78	1.22-2.60	0.003
	10年未満	195	69	35.4	3.52	2.21-5.52	0.000
現在の学校での勤務年数	3年<	588	91	15.5	1.00		
	1-3年以下	711	185	26.0	1.92	1.45-2.54	0.000
	1年未満	68	24	35.3	2.98	1.73-5.14	0.000
児童数 (小学校)	100人未満	172	33	19.2	1.00		
	100-500人以下	273	75	27.5	1.60	1.00-2.54	0.048
	500人<	80	25	31.3	1.92	1.04-3.51	0.036
学級崩壊	なし	1132	224	19.8	1.00		
	あり	183	59	32.2	1.93	1.37-2.72	0.000
授業を担当しているか	担当している	628	107	17.0	1.00		
	以前担当/今なし	452	101	22.3	1.40	1.03-1.90	0.030
	担当したことはない	202	64	31.7	2.26	1.57-3.24	0.000
校内で意見が尊重されているか	十分に尊重	287	28	9.8	1.00		
	ある程度尊重されている	999	220	22.0	2.61	1.72-3.97	0.000
	あまり尊重されていない	69	44	63.8	16.28	8.70-30.47	0.000
	ほとんど尊重されていない	11	9	81.8	41.63	8.57-202.3	0.000
他の教員からの相談頻度	よくある	657	105	16.0	1.00		
	たまにある	553	137	24.8	1.73	1.30-2.30	0.000
	あまりない	123	41	33.3	2.63	1.71-4.04	0.000
	ほとんどない	27	15	55.6	6.57	2.99-14.4	0.000
管理職からの相談頻度	よくある	211	30	14.2	1.00		
	たまにある	615	125	20.3	1.54	1.00-2.37	0.051
	あまりない	380	85	22.4	1.74	1.10-2.74	0.017
	ほとんどない	153	58	37.9	3.68	2.22-6.11	0.000
保護者からの相談頻度	よくある	244	26	10.7	1.00		
	たまにある	843	182	21.6	2.31	1.49-3.58	0.000
	あまりない	214	67	31.3	3.82	2.32-6.29	0.000
	ほとんどない	66	24	36.4	4.79	2.51-9.14	0.000
医療機関への紹介	あり	696	135	19.4	1.00		
	なし	676	166	24.6	1.35	1.05-1.75	0.021
児童相談所への紹介	あり	204	33	16.2	1.00		
	なし	1168	268	22.9	1.54	1.04-2.30	0.032
スクールカウンセラーへの紹介	あり	601	108	18.0	1.00		
	なし	771	193	25.0	1.52	1.17-1.99	0.002
仕事にやりがいを感じるか	とても感じる	263	29	11.0	1.00		
	かなり感じる	692	125	18.1	1.78	1.16-2.74	0.009
	どちらとも言えない	362	119	32.9	3.95	2.54-6.16	0.000
	あまり感じない	42	22	52.4	8.88	4.33-18.2	0.000
	まったく感じない	2	1	50.0	8.07	0.49-132.5	0.144

## 児童生徒からの性に関する相談で困った経験（自由記載）

小学校/中学校/高校の養護教諭に「児童生徒の性に関する相談への対応で困った経験」について尋ねた（自由記載）。これらの自由記載の質的データの帰納的内容分析を行った。但し、時間的な制約から、本報告書には初期段階の分析結果の概要のみを掲載するにとどめる。（注：一人の記載内容に多くの要素が含まれているため、要素を分割して分類した）

### ◆高校の養護教諭（参加者総数：460人）

#### 「対応に困った相談」で頻度の高かったもの：

（自由記載回答者：66人（回答率32.0%）/恋愛・交際や性の相談を受けたと回答した養護教諭206人中）

#### 学校側の問題

##### ●養護教諭の当惑（30人）

代表例：どうやって生徒を納得させ家庭と連絡、連携とるか。/着任したばかりで校内の先生のことも分からない為、誰に相談したらいいのか分からず、非常に困ったことがある。どのような支援があったらよかったのかよく分からないが、養護教諭が複数配置だったら情報交換、相談もでき、よかったのではないかと思う。/家庭の理解・養護教諭自身の相談相手がほしかった。/こちらは性感染症疑い等心配をするが、当の本人は全く問題意識していない。ギャップに困惑する。/何度説得しても誰にも話してほしくないと言いつける生徒との対応に困った。/援助交際をしている生徒がいたとき、「体のことが心配なので」と産科受診まではよかったが、その後、どの機関へ訴えればよいのかわからなかった。管理職とも相談の上、警察へ連絡した。こういっただけのときは、どこに相談すればよいのか？という対策マニュアル（支援）が欲しい。

##### ●学外機関（医療・専門機関）との連携（29人）

代表例：親身に指導してくれる産婦人科医が近くにあるとよいが、診療に忙しくなかなか時間が取れないので、病院とは違うサポートセンターのようなところに医師が常駐して、相談にのってくれるとよいと思う。/気軽に相談出来る産婦人科や思春期外来等、相談機関があればいいと思う。/思春期の性のトラブルが起きたときに相談できる思春期の専門医とトラブルが起きないよう気軽に学んだり相談できる人、そのような場所があったらいいと思います。/児童相談所など地域保健を充実してほしい。即動いてくれるだけの人材、機能がない。/高校生の話もしっかり聞いてくれるような病院がわかるといいと思う。/児童相談所では高校生を一時保護することができないと言われた。→女性のかけ込み寺的な所があったらと思いました。

##### ●性別対応（1人）

代表例：男子生徒対象に交際の仕方（女性に対する心遣いやDV防止など）について指導する場合の教材が不足して困っている。男女共同参画の取り組みとして女子トイレ個室へのパンフレット配布はあるが、同時に男性側への啓発となるものが欲しい。

#### 生徒側の問題

##### ①生徒の性に関連する問題

##### ●妊娠・性感染症の不安（35人）

代表例：たいいてい妊娠又は性感染症の疑いで、受診するには保険証とお金のことがあって勇気がでない。しかし不安はつるばかり、どうしたらいいかわからず養教に相談。/相手が避妊に協力してくれない。妊娠したかもしれない。/妊娠したという相談。/「妊娠したかもしれない」「妊娠させてしまったかもしれない」という相談。/望まない妊娠をしてしまった。/生徒の妊娠や性感染症での相談。

##### ●交際のトラブル（19人）

代表例：恋愛に関する相談。/恋愛の悩みが多い。失恋したとき、ケンカしたとき、女子生徒が来室。/異性関係でトラブル/付き合っている相手が成人など。相手への不満や将来のこと…。



→卒業したら結婚したいので、勉強や就職口を探す気が全くない。/彼氏、彼女との関係。他の男子または女子と話していけない束縛がある。携帯電話を見た。見られた。

#### ●DV (身体的虐待、精神的虐待、性的虐待) 被害 (8人)

代表例：デートDV (本人達は、その関係で良いと思っている)。/高1女子、集団レイプで被害後、不登校になり家庭でもトラブルがあり、家出しスナックで働きながら登校してきた。/父親 (実の) からのレイプ。/生徒間のDV問題。

#### ●援助交際 (2人)

代表例：援助交際をしている生徒がいた。

### ②生徒の心に関する問題

#### ●生活全般の不安・こころの問題 (13人)

代表例：自己肯定感が希薄で何度も同じことを繰り返す。人との関わり方がわからない。/何日間も同じ理由で訪れる生徒が多く、心の弱さに困った。/自分のことを知る。/嫌なこと、出来ないことがあると、すぐ発作を起こしてしまう。→連鎖反応でクラスの女子に次々と発作が起きる。

#### ●心的病気の発症 (8人)

代表例：身症的な症状やリストカットなどおこす。/リストカットをくりかえす生徒への対応。/神経症。うつ。/リストカット。自殺願望。/過呼吸発作、リストカット等を繰り返す。

### ③生徒の生活に関する問題

#### ●家庭の問題 (26人)

代表例：幼い頃から親とのコミュニケーションが作られていない結果から、こんな風になったのかと思うような事が多かった。/家庭の問題 夫婦仲や親の育児放棄など。/親に捨てられた生徒、父親が失踪したという相談。/家族問題。両親の不和、教育放棄、無関心等で本人や学校の努力ではどうにもならないケース。/家庭についての相談。例1、自分の本当の親に会いたい。が、育ての親である現在の両親が会わせてくれない。2、暴力3、母親の男性関係による、本人の母親不信等。

#### ●親・担任にも話せない・話したくない (17人)

代表例：親には言えない。/性に関する相談で親に言えないので保険証を使えず、病院へ行けないという事例。/保護者に内緒にして欲しいと強く訴える。/家の人にも先生にも誰にも言わないでほしいと言われた時。/「本人は誰にも言わないで!!」と訴える。/絶対に親に言えない (言わないでほしい) と相談されることが多い。本人を説得するようにしているが、なかなか簡単にはいかない。

#### ●生徒の学校環境とその問題 (9人)

代表例：退学したいが親が許してくれない (実は本人も決心がつかない)。目標が定まらない。/教室に入れないなど。/メールによるトラブル (いじめや書き込み、中傷)。/進路について。/学校にも居場所がない。/先生がこわくて、授業に行きたくない。/相手を信用して話したのにみんなにバラされた。

#### ●麻薬・薬物との関わり (1人)

代表例：薬物乱用。

## ◆中学校の養護教諭（参加者総数：570人）

### 「対応に困った相談」で頻度の高かったもの！

（自由記載回答者：75人（回答率78.1%）/恋愛・交際や性の相談を受けたと回答した養護教諭数96人中）

#### 学校側の問題

##### ●養護教諭の当惑（26人）

代表例：男女交際で性行為等があったもの。生徒より相談、話をきき、親や管理職におろしてよいものかどうか対応に困ったことがあった。/保護者にどのように伝えるか。/妊娠したかも知れないという内容の場合、その対応に悩むことがある。/家庭にあまり恵まれず、男の子と交際することでしか喜びを感じられてなかった中3女子とのかかわり。学校に来ている時は毎日のように話をしたが、なかなか伝わっていかなかった。/担任、保護者に伝えることを説得したが上手くいかず、生徒と養護教諭の信頼関係が崩れかけた。/性に対する対応で女子生徒で、個別指導をいくらしても、性行動をおさえることができませんでした。性行動を急がず、よく考えて交際できるよう、学年に合った（1年、2年、3年）支援を行えば良かったと反省しています。

##### ●学内連携の必要性（27人）

代表例：職員間の共通理解ができていなかったと思われます。/学校の組織が機能していて、職員間の共通理解が充分であることが必要と思います。/妊娠、中絶問題→チームを組んで対応したが、むずかしい問題でもあるので、日頃から全職員で性教育の指導について意志統一できる研修会の開催など…。/対応していた女教師3人とどのように関わってあげるのがよいのか悩み、全職員に相談した。/休憩時間等居場所に困る時は保健室で過ごさせ、あせらずに温かく見守る方向で職員の意思統一を図りつつ、保護者とも連絡を取り合った。/学年+保健室対応でなんとか卒業まで行き着くことができた。

##### ●学外機関（医療などの専門機関等）との連携（20人）

代表例：学校、児童相談所、警察、家庭との連携。/ひとりがかかえこんでしまったので、スクールカウンセラーや担任とも連携をとって対応したかった。専門家の意見をききたかった。/学校医に産婦人科医（できたら女医）もほしい。/性の養護教諭の存在があれば良いのかとも考えました（支援）。/養教が問題を抱えた時、迅速に対応しなければならないケースが時々あります。そんな時に、すぐに相談できる場所があれば良いのと思うことがあります。/地域の民生委員や市の家庭児童相談員などと協力できるとよかった。保護者を支えることができる人につながられるとよかった。

##### ●家庭との連携（6人）

代表例：学校と家庭とうまく連携し、協力と理解を得ること。/担任と保護者とじっくり話し合える環境作りへの支援。/保護者との関係がとりにくい。

##### ●保護者からの相談（1人）

代表例：養護教諭になりたてで、経験が浅かった時に、保護者と思われる方から電話で、性交の場面を小学校の息子を見られてしまって、エッチな絵を描いたり、性的な雑誌に関心を強く抱くようになり、大変困ったという相談を受けたが、適切な対応ができず、一番困った相談だったと心に強く残っています。

##### ●地域との連携（1人）

代表例：地域で生活している上で、断つことのできない関係。男女間や、上下関係で、学校での支援の限界を感じます。→保護者の積極的なかかわりが、重要。

##### ●性教育の必要性（5人）

代表例：保健授業（性教育）の実施。/自分自身をもっと研修などで学び、自分を大切にすることの意味や命の尊さなどを語るができるようにならなければ…と感じました。/性に関する正しい知識を教えること。/性教育を日頃からきちんと行うことが必要と思う。

## 生徒側の問題

### ①生徒の性に関連する問題

#### ●性的暴行(9人)

代表例：義兄(父母が再婚、父の連れ子)からの性的暴行。/性的被害についての相談。怠惰による不登校の生徒だったが、親戚から性的暴行を受けた。と相談があった。/幼少期に性的被害にあった少女の悩み。/下校途中、不審者に遭遇し、性器を見せられた女子が、その後男性恐怖症のような状態になり、全ての男子が怖い、と訴え体が震えたり泣き出したりしてきた。体調不良を訴え、登校しづらくなる傾向にもなった。

#### ●妊娠・性感染症への不安(19人)

代表例：「妊娠したかもしれない」という相談を受けたとき。/女生徒が妊娠したかもしれない症状(吐気・生理が来ない等)をつかんだ時。/性感染症にかかって、病院へ連れて行ってほしいと頼まれた件。/妊娠してしまった。中絶した。/性感染症に感染していたこと。

#### ●交際の悩み(3人)

代表例：性的な相談(異性関係)。/異性関係のもつれ。

#### ●性行為に関しての悩み(17人)

代表例：付き合い合った男性の言いなりになり、体の関係も拒めず、悩んでいる女生徒。/男女交際が発展して、性交が日常化した例。/友人との関係が作れずに孤立して、男子生徒(年下)と性的関係を持った中3女子(関係を持っただけで妊娠することにはならなかった)。/相談者：3年生女子 相談内容：つき合っている彼(高校生)とSEXする時、彼がコンドームをつけてくれない。また生理が2週間おくられているのだが妊娠したのだろうか。その時考えた事悩んだ事。/性の問題(そのつもりはなかったのに…性交してしまった)。/異性との性的接触を求められると断れない。/彼女が性行動をせまってくるが自分にはその気はない。ことわると「自分のこと好きじゃないの?」ときく男子生徒。言いにくいことでもメールだと言える男子が多い。

#### ●性に関する相談(10人)

代表例：性に関する悩み相談。/「周りの友人は初体験をした。自分はまだだが、どうしよう…」という性的な悩みの相談。/男の子の性の悩みについての相談。包茎について悩む子どもの相談にどのように答えて良いか悩みました。/性に関する相談。/性の不一致に悩む相談。

#### ●セクハラを受けた(3人)

代表例：教員からのセクハラを受けた女生徒の対応。/家庭教師にセクハラ行為を受けている相談。

#### ●援助交際をしている事例(3人)

代表例：援助交際をしている現状を話しに来る生徒達がありました。困る、いけないこと、恥ずかしいという感情ではなく、自分は他と違う経験をしていることに対する優越感とでもいうような感情としか当初は理解できませんでした。/生徒が援助交際をしていて、不登校となった事例。

### ②生徒を取り巻く学校生活・家庭生活の問題

#### ●親や担任には話せない、話したくない(9人)

代表例：誰にも言わないでほしいという相談。/保護者にも教師にも秘密といわれると、生徒との信頼関係もあり対応に悩む。/「親に言わないで欲しい」・「担任に黙ってて」この二言が性的な相談を受けるとき、よく言われる。/本人は絶対に親や他の教師に言って欲しくないと言いつづる。

#### ●家庭環境の乱れ(13人)

代表例：保護者の育児能力のなさ(ネグレスト・ネグレクト)。要保護家庭の生徒で母親がたとえばカラオケだとか、夜遊びに連れ歩き、朝起きることができず、朝食抜きで遅刻、制服も汚れが目立ち、体調不良を訴える。/家庭の事情で保護されている養護施設にいる生徒からの相談。生徒は自分の家で親と生活したい気持ちが強く、施設にいたくないため、精神的に不安定になっている場合の相談。/「家庭内暴力、保護者が、働かないため収入がなく、集金が滞納してい

る。家庭でその子を守ってくれる人がいない、けがをしたり、具合が悪くても保険証がないため病院へ行くことができない、行っても支払いが困難」という女子生徒がいました。/親が逮捕されたため、家の中が混乱しているために起こる相談。/家庭の問題（保護者がアルコール依存症（父）とうつ病（母）、姉が病気）。

### ③生徒の心に関する問題

#### ●心的トラブルの発症（12人）

代表例：リストカットを繰り返す生徒（やめたいがやめられない）。/うつ病疑いで、受診し、診断後入院した。/一過性の記憶喪失。/目が見えない…と訴える。/目の前（教室で、担任の前で…）で、リストカットを繰り返す生徒の対応について。

### ④その他の問題

#### ●卒業生・卒業後の相談（6人）

代表例：県外で大学生となった卒業生から、異性交際（妊娠）の相談を電話で受けたとき。/卒業生の妊娠騒動。/卒業生からの性の問題。/高校においてもリストカットは続き、何度か問い合わせもあった。

#### ●薬物依存（1人）

代表例：薬物依存。

#### ●いじめを受けている問題（2人）

代表例：いじめがあり、保健室登校に近い形で来室（学校全体での心の教育）。/学校内でいじめられていると思いき悩まされているが、学坦に相談しても期待する動きがないことで相談を受けた時。

### ◆小学校の養護教諭（参加者総数：813人）

#### 「対応に困った相談」で頻度の高かったもの：

（自由記載回答者：9人（回答率81.8%）/恋愛・交際や性の相談を受けたと回答した養護教諭数11人中）

#### 学校側の問題

#### ●連携構築の困難（5人）

代表例：（専門機関へつなげたかった）だが実際には、その子自身を他につなげていくことも至難のわざであり、難しいと感じた。/養教が間に入ってしまい、板ばさみ状態。

#### ●専門医療関係との連携（4人）

代表例：1対1で話せる時間が持ちにくいときもあるので、SCや、学年団などとのチームでみていけるようにしたかった。/男性の立場にたった、的確なアドバイスや指導のできる男性からの支援。/小学生を婦人科受診させるのに少し抵抗があり、気軽に相談できる婦人科の先生がいたらと思いました。

#### ●学内連携の不備（2人）

代表例：担任との人間関係（校内での話し合いや管理職からの指導、どちらも納得できるような話し合いの場がほしかった）。/この程度のことで同僚を売するようなことをしていいものか、数年で退職だし。

#### ●学校からの社会への関わり（1人）

代表例：学校全体としての集団指導、保護者の相談にのることのできる支援。

#### ●児童と教師との関係（1人）

代表例：相談の内容が教師とのトラブルだった場合、非常に伝え方に苦慮する。児童生徒に配慮しながらも、対教師の資質や能力の部分での問題がある場合、解決策が見い出せない場合が多い。特に生徒が一方的に教師に恋愛感情を抱き授業を受ける事ができなくなった時には驚いた。